

## JA自己改革推進レポート（JA鳥取中央）6月号

### ① 芸人「ガンバレルーヤ」起用 青果販売元気に！

JA鳥取中央は令和3年度の販売戦略として、幅広い年代に人気のある吉本興業のお笑い芸人「ガンバレルーヤ」を起用し、コロナ禍の青果物販売を乗り切る。

「ガンバレルーヤ」のまひるさんは、鳥取県大山町出身。JAの主要特産物のらっきょう、スイカ、ブロッコリー、県オリジナル品種のナガイモ「ねばりっこ」を明るいイメージで販売することで地域を活性化させ、生産者支援につなげる。

5月中旬に出荷が始まったらっきょうを皮切りに主要特産物の店内広告（POP）を店頭に掲げてアピールする。生産者の店頭販売や試食宣伝などが難しい中、青果販売で平成29年度以来4年ぶりの101億円突破を目指す。



### ② 久米支部女性会「えがおグループ」がちまき作りに挑戦

JA鳥取中央久米支部女性会「えがおグループ」は倉吉市で5月13日、ちまき作りに挑戦した。会員やJA職員ら約20人が参加し、交流を深めた。

参加者らは6グループに分かれ、地元で採ったササの葉を使い、巻き方やひもの結び方などに悪戦苦闘しながら昔ながらの作業を楽しみ、90分ほどで約150個を仕上げた。年間活動計画の話し合いも行われ、「健康増進についての講習」や新型コロナウイルスの状況を見ながらの「研修旅行」などがあげられた。

参加者からは「慣れるまで大変な作業だったけど、みんなの笑顔が見られて楽しい時間を過ごせた」と好評だった。



### ③ 大栄支所がシトラスリボンプロジェクトの活動に参加

J A鳥取中央大栄支所は5月10日、全国で広がっているシトラスリボンプロジェクトの活動に参加し、来店者60名に職員が作ったシトラスリボンと飴を配布した。



同プロジェクトは、シトラスリボンを身に着けることにより、思いやりの輪を広げ、新型コロナウイルス感染症や医療従事者への偏見や差別の撲滅を目指している。シトラスリボンは、この活動が始まった愛媛県の特産の柑橘類にちなんだシトラスカラーで、①地域②家庭③職場（学校）を表現した3つの輪をシンボルにしている。

今後、女性会やフレッシュミズもこのプロジェクトに参加し活動の輪を広げていく。同支所の河野支所長は、「このシトラスリボンプロジェクトを広めていき、新型コロナウイルスに対しての差別や偏見をこの地域からなくしたい」と話した。



### ④ 青壮年部琴浦支部が園児と田植え

J A鳥取中央青壮年部琴浦支部は5月25日、琴浦町の青壮年部が管理する18畝の田んぼで、園児を対象に田植え体験学習を実施した。

盟友の山田さんが植える苗の本数や植える深さについて説明した後、園児は裸足で田んぼに入り、泥の感触を楽しみながら水田に張られた目印のついた紐に沿って、「ハクトモチ」の苗を植えた。体験した園児は「植えるのが難しかったけど、田んぼがびちょびちょして楽しかった。美味しいお米になってほしい」と笑顔を見せた。今後、園児らは10月に稲刈り、12月に餅つきを行う予定。



この学習は食農教育の一環として40年以上前から始まり、今年は東伯・八橋地区の園児約100人と、別日には琴浦町立聖郷小学校の5年生が参加した。

以上